

3月16日 北陸新幹線(金沢・敦賀間)開業!!!

2024年3月16日、鉄道・運輸機構（JRTT）が建設主体として整備を進めてきた、北陸新幹線（金沢・敦賀間）125.2kmが開業しました。

1973年の整備計画決定から実に51年。喜びに包まれた北陸各地の様子をレポートします。

文・写真：栗原 景（フォトライター）

敦賀駅で金沢行き最終列車を見送る

2024年3月15日23時16分。福井県の敦賀駅に、白い車体の特急列車が入ってきました。米原発の特急「しらさぎ65号」金沢行き。北陸新幹線延伸区間開業に伴い、北陸本線敦賀駅・金沢駅間は翌日から第3セクター

のハピラインふくいとIRいしかわ鉄道に経営を移管し、在来線の特急列車は運行を終了します。「しらさぎ65号」は、敦賀駅から金沢駅まで走る最後の在来線特急です。ホームに集まった100人近い人々が盛んに手を振る中、定刻の23時17分、「しらさぎ65号」は静かに動き出し、夜の闇に走り去っていきました。



最後の在来線特急「しらさぎ 65 号」が敦賀駅を発車

それから約5時間後の3月16日早朝4時。またひとつ、鉄道の歴史が大きく動く時が来ました。

まだ薄暗い敦賀駅は、既に静かな熱気に包まれています。2012年6月の工事着手から約12年、整備計画決定から51年を経て、北陸新幹線（金沢・敦賀間）125.2kmが開業の日を迎えるのです。東京と福井県が最高速度260km/hの新幹線で直結し、東京・福井間は従来よりも36分早い最速2時間51分、東京・敦賀間は最速3時間08分で結ばれます。

敦賀駅をはじめ各駅で開業・出発式典を開催

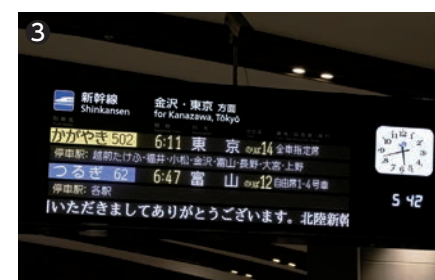
4時50分、西口の改札口がオープン。6時11分発の東京行き一番列車、

木場潟を背景に走行する北陸新幹線

「かがやき502号」に乗車する人、見送る人が改札内に入ってきました。窓口は、既に入場券や乗車券を購入する人で長蛇の列ができています。

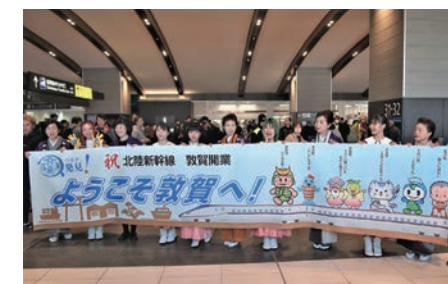
駅の東口、かつて敦賀第一機関区などがあった敷地に建設された北陸新幹線敦賀駅は、2面4線の乗り場を備えています。ホームは地上3階で、2階には在来線と新幹線の乗り換えコンコース、1階には大阪や名古屋からの特急列車が発着する専用ホームがあります。

5時05分、かつて日本海で栄えた北前船の帆をイメージした屋根が特徴的な2階新幹線柵内コンコースで、開業記念式典が始まりました。式典は、まず長谷川一明JR西日本代表取締役社長が挨拶し、来賓の斉



①多くの人でにぎわう敦賀駅前の開業イベント
②敦賀駅の乗り換えコンコース
③東京行き一番列車「かがやき502号」を示す発車標
④富山からの一番列車から降車する人々
⑤敦賀駅出発式でのテープカット
⑥ホームではたくさんの人が車両を撮影した

藤鉄夫国土交通大臣、高木毅衆議院議員、杉本達治福井県知事、米澤光治敦賀市長、そしてJRTTの藤田耕三理事長が、それぞれ祝辞を述べました。斉藤大臣は、敦賀がかつて日本とヨーロッパを結ぶ「欧亜国際連絡列車」の玄関口であった歴史に触れ、「今度は現代の技術の結晶である新幹線が走ることで、北陸地域全体の振興・活性化はもちろん、1月1日に発生した能登半島地震からの



敦賀駅で市民が横断幕を持って出迎え

復旧復興の大きな原動力になると期待している」と挨拶。藤田理事長は、敦賀駅が在来線との乗り換えにも配慮した、整備新幹線としては最大規





①福井駅の出発式には EXILE/EXILE THE SECOND の橘ケンチさんがスペシャルゲストとして登場（写真提供：JR 西日本） ②初めて福井駅に姿を現した「かがやき 501 号」 ③小松駅前での開業記念イベント（撮影：中西優）

模の駅であることを紹介し、「地域のシンボルとして多くの方に利用されてほしい」と述べました。

ここで、北陸新幹線開業プロモーションのテレビCMに出演している俳優の中条あやみさんがスペシャルゲストとして登壇。北陸三県でのCM撮影や福井でのデスティネーションキャンペーン参加を振り返り、「私自身も北陸の一応援団員として、北陸の魅力を国内外に伝えたい」と開業を祝いました。

開業記念式典は、金沢・敦賀間の各駅で開催されました。敦賀駅よりも一足早く、4時50分から行われたのが金沢駅です。金沢駅の式典には、馳浩石川県知事や村山卓金沢市長が出席し、スペシャルゲストには東京オリンピックで「姉妹で金メダル」

を果たした、石川県津幡町出身の女子レスリング選手、金城梨紗子さんと恒村友香子さんが登場。6時ちょうどに発車する敦賀行き一番列車「つるぎ1号」を見送りました。

5時25分には福井駅、5時30分には越前たけふ駅でも式典がスタート。福井駅には「福井市食のPR大使」を務めるEXILE/EXILE THE SECONDの橘ケンチさんが、越前たけふ駅には、福井のメカネづくりを描いた映画「おしよりん」に出演した俳優の小泉孝太郎さんがスペシャルゲストとして参加しました。5時55分から式典が始まった小松駅には、人気グループSixTONESのメンバーで石川県生まれの森本慎太郎さんが登場。金沢駅で出発式を終えたばかりの馳知事も駆けつけ、開業を祝いました。



敦賀駅出発式では小学生から一番列車の運転手に花束を贈呈（写真提供：JR 西日本）



さまざまな思いを乗せて「出発進行！」

5時43分、敦賀駅14番ホームの先頭車付近で出発式が始まりました。地元の小学生から「かがやき502号」の運転士に花束が贈呈され、テープカットとくす玉開披へ。「かがやき502号」の乗客も続々とホームに上がり、記念写真を撮るなどして歴史的な出発前のひとときを過ごしています。

5号車の前で、「かがやき502 東京」と表示された行先表示器をスマートフォンで撮影しているのは、大阪府島本町から来た佐村真也さん・仁愛さんご夫妻です。

「社会人になって最初に赴任したのが金沢で、大阪と金沢を特急『サ



金沢駅でも小旗を振って観光客をお出迎え（撮影：中西優）



「かがやき 502 号」の前に立つ佐村さんご夫妻

ンダーバード』や『雷鳥』で何度も往復しました。北陸には思い入れがあり、妻も旅行が大好きなので、今も毎年富山の蜃気楼を見に行くなど、よく訪れているんです」

聞けば、佐村さんの祖父は、JRTTの前身組織である日本鉄道建設公団（鉄道公団）の職員だったそう。「祖父から、長野新幹線をはじめ、鉄道建設にかかわる話をたくさん聞いて育ちました。ですから、新しい新幹線に乗って車窓風景を見ることを楽しみにしていたんです。今日は金沢まで行って、新しい駅を見て回ります」

一番列車のきっぷは、1カ月前の発売時には取れなかったものの、1週間ほど前に運よくキャンセルをキャッチできたそうです。後日、佐村さんからは「車窓右手から昇ってくる朝日が綺麗でした」とメールをいただきました。

6時11分、いよいよ発車時刻となり



「つるぎ 1 号」のグランクラスから降車した野中さん

ました。敦賀駅長と中条あやみさんが手を挙げ、出発合図を送ります。

「出発、進行！」

「かがやき502号」は、高らかにタイフーンを鳴らすと、静かに走り出しました。北陸新幹線（金沢・敦賀間）の開業です。同じ頃、東京駅でも敦賀行きの出発式が行われ、6時16分に「かがやき501号」が敦賀へ向けて発車しました。

関西・名古屋方面への乗り換えもスムーズにスタート

敦賀駅が再びにぎやかになったのは6時57分。金沢駅を6時に発車した「つるぎ1号」が到着しました。前日までは富山・金沢間のシャトル列車として一部の車両のみを使用して「つるぎ」ですが、今日からは

北陸の都市間輸送列車に生まれ変わり、グランクラスを含む全車両が営業を行います。

その「つるぎ1号」のグランクラスから、目を輝かせて降りてきたのは宮城県仙台市の野中朋貴さんです。大の鉄道ファンである野中さんは、特急券の発売日の2月16日に、地元の駅でグランクラスの指定席券を申し込んだそうです。

「ダメで元々と思っていたのですが、駅員の方が発売と同時に、10時00分00秒ぴったりに端末を打ってくれて、取れたのです！開業一番列車の、それも18席しかないグランクラスに乗れて、今までの人生で一番うれしいです！」

前日は、「しらさぎ65号」に乗車したという野中さん。今日はこれか

①芦原温泉駅では、あわら温泉の女将さんたちが和服姿でお出迎え ②加賀温泉駅には、グルメや雑貨など多くの店舗が出店（撮影：中西優） ③敦賀駅に入線した列車を撮影する人々





①福井駅を発車する「かがやき 501 号」 ②開業日当日の敦賀駅の様子 ③福井市観光交流センターではリアルに動く恐竜ロボットがパフォーマンスも

ら小浜線に乗って、小浜・舞鶴方面を旅するそうです。

「つるぎ1号」は、7時05分発大阪行き「サンダーバード2号」、7時11分発名古屋行き「しらさぎ2号」に接続しています。乗り換え時間は最短8分ですが、19通路もある連絡改札と、分かりやすく示された誘導表示のおかげもあって混乱はなく、両列車ともほぼ時刻通りに発車しました。

この後も、各駅で開業記念式典と出発式が行われます。7時55分に式典が始まった芦原温泉駅では、あわら市を舞台のひとつとする人気アニメ「ちはやふる」の声優（瀬戸麻沙美さん、細谷佳正さん、安済知佳さん）を、8時からスタートした加賀温泉駅では、加賀

市特命かがやき大使を務めるグッチ裕三さんと石川県加賀市出身の中山夏月姫さん（OCHA NORMA）をそれぞれスペシャルゲストに迎えて、東京行き「かがやき506号」を見送りました。

「長生きしてよかった!」

福井県の県庁所在地に位置する福井駅にやってきたのは9時。福井駅の新幹線ホームは、新幹線としては珍しい1面2線で、1本のホームの左右に敦賀方面行きと金沢・東京方面行きの列車が発着します。

9時13分、12番ホームに東京駅からの一番列車「かがやき501号」が定刻に到着しました。1階の改札前には地元の人々がずらりと並び、初

めて新幹線で到着した人々を大歓迎。東京方面から来た人々と福井の人々があちこちで言葉を交わし、喜びに包まれます。

W7系の大きなぬいぐるみを抱えてホームから「かがやき501号」を見送ったのは、福井市に住む志村美伶ちゃん4歳。「こんどは『つるぎ』がくるよ!」と大はしゃぎです。昨年、家族で京都鉄道博物館に行って以来、大の新幹線ファンになりました。今日はお母さんと「かがやき508号」に乗って金沢まで行くそうです。

その隣で、発着する新幹線を写真に収めている女性3人は、やはり福井市内に住む吉元幸子さんと、娘の鈴木幸江さん、大村清子さんです。



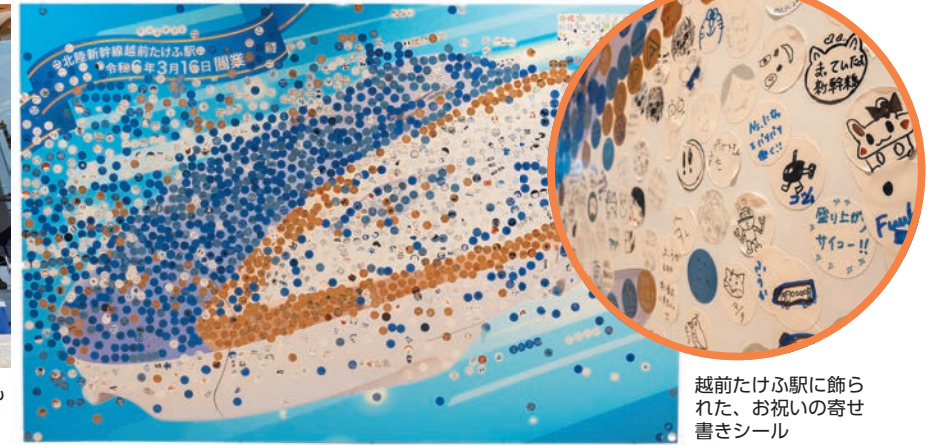
W7系とE6系が大好きな女の子、志村美伶ちゃん



娘さんとやってきた吉元さんは御年90歳。「長生きしてよかったなあ」



芦原温泉駅西口にぎわい施設「AFLARE（アフレア）」もお祝いムードに包まれた



越前たけふ駅に飾られた、お祝いの寄せ書きシール

御年90歳の吉元さんは、北陸新幹線の整備計画が決定した時、30代。まさか生きているうちに、本当に福井に新幹線が来るとは思わなかったそうです。

「東京からの列車が到着した時は、ああ、長生きしてよかったなあって」10時を過ぎると、福井駅とその周辺は、開業記念イベントを楽しむ人々でますますにぎわってきました。今日は、各駅で地域の趣向を凝らしたイベントが開催されていま

す。小松駅前の会場では、同駅と加賀温泉駅の発車メロディーを作曲・編曲した松任谷由実さんと夫の松任谷正隆さんがサプライズ登場。多くのファンを沸かせました。

そして、12時40分。福井駅の上空に、6機の航空機がスモークを引いて現れました。航空自衛隊「ブルーインパルス」による祝賀飛行です。福井駅上空を通過したブルーインパルスは、越前たけふ駅と敦賀駅上空を飛行し、12時55分頃に再び飛来。ス

モークで空中にさくらやハートなどの絵を描く演目飛行を行い、多くの人々が駅前広場や周辺からその見事な飛行を見上げました。

人々の笑顔とにぎわいに包まれた開業イベントは、翌17日の夕方まで続きます。半世紀を経て、とうとう福井にやってきた北陸新幹線。首都圏と北陸を直結するだけでなく、北陸地方のまちを結び、人とモノの交流を促す大切な社会基盤となることでしょう。

福井駅上空を飛行する「ブルーインパルス」

